



Paulownia

建学の精神 神を畏れることは知識のはじめである

Vol.317
2018.4.30

Paulownia とは中部学院のシンボルである「桐」の英語表記で、かつては大学祭を「ポローニア祭」と呼び、学生に親しまれてきました。

大学間連携

岐阜大学と連携協定 締結

障がい者教育など交流の推進を図る



【目的】

岐阜大学と中部学院大学及び中部学院大学短期大学部（以下「中部学院大学」という）は連携協力し、両大学の教育研究の向上を図ることを目的として協定を締結する。

【具体的な連携事項】

- (1) 両大学の学生の交流、共同学習に関すること
- (2) 両大学の教職員による共同研究等に関すること
- (3) 両大学が有している人的資源や物的資源、情報などの活用に関すること
- (4) その他連携・協力にかかる必要事項

連携協定を締結した（左から）中部学院大学の古田善伯学長、岐阜大学の森脇久隆学長、中部学院大学短期大学部の片桐多恵子学長＝岐阜市柳戸、岐阜大学

中部学院大学ならびに同短期大学部と岐阜大学は大学間連携協定を締結しました。

これまで両大学では、2012（平成24）年2月に岐阜大学応用生物科学部と本学とで連携協定書を締結。同学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター柳戸農場で、障がい者のための農業技術教育の開発（農福連携）に取り組んできました。また、特別支援教育に関する国際交流では、岐阜大学はタイ王国教育省基礎教育委員会と、中部学院大学はタイ王国教育省特別支援教育課とそれぞれ協定を締結。タイ王国の特別支援学校教員の訪日研修では、両大学が共同して取り組んでいます。近年では、地域再生・活性化の拠点となる大学の形成に取り組んできた「地（知）の拠点整備事業（大学COC）」を発展させ、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」を協働して進めています。岐阜県や県内企業、地元金融機関、愛知県内の大学などとも連携し、学生にとって魅力ある就職先を創出するとともに、地元企業へのインターンシップを核とした教育プログラムを推進しています。今回の締結は、両大学のさらなる教育研究の向上を目的とし、▼学生の交流、共同学習▼教職員による共同研究▼人的資源や物的資源、情報などの相互活用などが盛り込まれました。

締結式で岐阜大学の森脇久隆学長は、「両大学が取り組んできた特別支援教育など日本型教育の海外展開に向け、連携の強化を図るとともに、双方の強みを活かして地域の発展に貢献したい」と話しました。中部学院大学の古田善伯学長は、「本学は小規模な大学ですが、学生は4年間の学生生活を通じて、人として大きく変化し、成長しています。岐阜大学との連携によって、その幅をさらに拡大していきたい」、同短期大学部の片桐多恵子学長は、「人が生を受けてから終末期を迎えるまでのそれぞれのステージに関わる教育を展開しており、岐阜済美学院が有する幼稚園、高等学校を実習の場としていますが、岐阜大学が有する附属小学校、中学校とも連携することで、さらに一貫した実務研修が可能となることを期待している」とそれぞれ期待を寄せました。

今後、両大学の学生、教職員の交流をはじめ、共同研究、施設設備の有効活用から地域貢献に至る先進的な取り組み、教育研究の向上を図るとともに、岐阜県の発展につなげていくことが期待されます。